藤香会だより

第36号
令和６年１月１日発行
発行者
一般社団法人 藤香会
事務局
092-724-0007
発行責任者
毛屋　嘉明

新しい年を迎えて

黒田家第十六代　黒田長高

黒田長高さん

新年明けましておめでとうございます。

皆さまお元気に新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

一昨年、昨年と長政公没後四百年の節目で多くの行事がございましたが、やっとひと段落して皆さま、よいお年を迎えられましたでしょうか。

昨年はそのほかに博多祇園山笠に次期当主となる裕大が夫婦で初めて来福し、中洲流で集団山見せの台上がりをし、そして歓迎会で藤香会の皆さまとご一緒に歓談したことが一番のニュースではなかったかと思います。この時は（公財）黒田奨学会による歓迎会、また福岡市博物館、当家ゆかりの修猷館高校にも伺いましたので、覚えていただけたのではないかと思います。

その後８月４日には長政公の第四百一回遠忌法要が崇福寺にて例年通り執り行われ、10月７日には光雲神社による長政公四百年祭が盛大に行われ、藤香会の皆さまも多数出席されました。さらに11月には東京湯島聖堂において第二十回全国藩校サミットが行われて藤香会の会員の方も数名出席されており、交流会では秋月藩の秋陽会の方たちとも親交を深めております。

ワクチンのおかげで新型コロナウィルスによる感染は減少しているようですが、まだ収束されたわけではありません。本年もさまざまな活動や行事があるかと思いますが、皆さま充分にお気を付けいただきたいと思います。

最後に藤香会の賛助会員を含めた会員の増加を願いますとともに、皆さまが健康な一年を過ごされますよう祈念いたします。

集団山見せで裕大さんが台上がりをされました

締込み法被姿の替えられた
黒田裕大さん（櫛田神社会館）

7月13日、博多祇園山笠で裕大さんが中洲流に台上がりされました。長高様が平成26年の集団山見せで千代流に台上がりされていますので、それに続く2回目となります。

当日は新装なった櫛田神社会館で締め込み・法被姿に替えられました。会館では博多町家ふるさと館の長谷川法世館長（漫画家）が挨拶され、裕大さんは出発点の呉服町へ、長高様一行は博多町家ふるさと館での展示物の鑑賞をされました。

人形師中村弘峰さんの
黒田長政公

集団山見せで中洲流に台上がりされた裕大さん

なお、1番山の土居流は表が黒田長政公、見送りが如水公で、人形は中村信喬さん（本会会員）父子で、子息弘峰さんが長政公を、信喬さんが如水公を作られました。

また翌日は長高様ご夫妻、裕大さん夫妻、鈴木さん夫妻が揃って光雲神社を参詣されました。

光雲神社で長政公400年祭が開かれました

10月7日、福岡藩の鼻祖（びそ）如水公と初代藩主長政公を祀る光雲神社で長政公400年祭が挙行されました。

16代当主長高様ご夫妻をはじめ藤香会山崎会長も参列され、玉串を奉奠されました。終了後は、寺田蝶美さんの筑前琵琶「藤巴」が奏され、柳生新陰流荒津会の演武、飯盛神社の方々の弓が披露されました。

玉串を奉奠される長高様ご夫妻

飯盛神社弓道会の
人たちによる７人矢の奉納

長政公400年忌法要が執り行われました

没後満400年にあたる命日の8月4日、長政公の法要が崇福寺本堂と黒田家墓所で執り行われました。過酷なまでの暑さの中、長高様はじめ44名の会員が参列しました。

墓地に参詣する会員

崇福寺住職・明永啓道老師の般若心経にはじまる読経の中、長高様、山崎会長から会員の焼香が滞りなく終わり、若いお坊さんの表白で本堂での法要を終了しました。

続いて黒田家墓所に場所を移して参列者全員が焼香を行なって菩提を弔いました。

文化講演会が開催されました

恒例の文化講演会は11月3日（金・祝）に福岡市博物館で開催されました。長政公没後400年にまつわる「筑前入国後の黒田長政」と題しての講演で、講師は昨年に続いて福岡市博物館の髙山英朗学芸員でした。出席者は118名でした。

講演される
髙山英朗福岡市博物館学芸員

髙山講師は「黒田家文書」や「新訂・黒田家譜」に記述されている長政公の子どもをはじめ子々孫々に至るまでの家訓としての事柄などを説明されました。

史跡巡りを開催しました

今年は黒田家ゆかりの福博にある寺院巡りを10月26日に行ないました。参加者は28名。如水公室の光姫ゆかりの圓應寺に集まり、大長寺、少林寺、安国寺を参詣し、昼食後は博多部に移動して承天寺、聖福寺、節信院と黒田家ゆかりの寺院を巡りました。

福岡市博物館で黒田侯爵家名品展が開催されました

長政公没後４００年を記念して「黒田侯爵家の名品」展が９月15日～11月５日まで開催されました。藤香会はこの特別展を後援しました。会場は、「重宝」、「家宝」、「移動する家宝」と「侯爵家と福岡」の４つに分けて展示された。

開催に当たって有馬学博物館総館長の講演があり、江戸時代に福岡藩・黒田家のアイデンティティや存在の正当性を示す重宝が初期の藩主の持ち物を中心に指定され、明治になって新たに「家宝帳」が作られたことが説明された。

また、旧藩主家は黒田家に限らず、日本の近代化を支えたエネルギーである「立身出世」に、教育に力を入れた。その他に近代化をサポートする起業に出資をしている。これは高貴な者の義務としてのノブレス・オブリージュの精神を持っていたことを示している。

図録も販売されて、長高さまの序のほかに謝辞の対象として田中雅美監事の名前が記された。

会員クリック㉝

武部自一さん

私は、小・中学校の事務職員として41年間勤め、退職して今は新しい仕事をしているところです。その仕事は三つあります。

一つは自分の本を出すことです。実は、私の五代前の先祖に武部小四郎、六代前の先祖に建部（たてべ）武彦という人がいます。小四郎は、越智彦四郎と福岡党を組織して、西郷隆盛の西南戦争に呼応して、明治10年3月28日に挙兵します（福岡の変）。この福岡の変は、福岡党側に刑死五人、戦死五十一人、獄中死四十三人、処罰者四百七十九人を出し、焼失家屋三百四十四戸以上という大きな事件でした。（同志中の頭山満は変事萩の乱参画の嫌疑で拘束され獄中にあり、また平岡浩太郎は薩軍に入るも、本隊とはぐれて捕縛されて、後に玄洋社の初代社長となります）そして武彦は幕末福岡藩内の勤王派として活躍し、第一次長州征討の時は、幕・長間の調停に入って功を挙げた人です。私は、この二人の先祖と彼らが関わった大きな事件について纏め、それを『福岡の変と建部武彦』という本に自費出版しました（本はアマゾンで発売中です）。今後は、日本の歴史や、詩集や、エッセイや絵本を書きたいと思っています。

次は音楽活動です。私は高校生の時にグループ・サウンズのザ・タイガースの大ファンになり、それ以来ロックが好きになり、更にブルーズやソウル、カントリーを聞くようになって、今は自作の歌をカフェなどでギターの弾き語りをしています。

最後は仕事ではありませんが、弓道です。弓道は30年以上もやっていますが、スポーツと違って日本の伝統が感じられるところがいいですね。１５００年以上の歴史があるのではないでしょうか。

今後もこの３つのことをライフ・ワークとして取り組んでいきたいと思っています。皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

ちょっとうんちく

福岡藩が箱崎に御茶屋を持っていたことをご存知の方もあるかと思います。その図面を入手いたしましたので、御茶屋について少し書いてみたいと思います。

筥崎宮を少し離れたところに網屋天満宮があり、その脇に「御茶屋跡」の碑が建っています。それより浜側に、東西70ｍ・南北50ｍの敷地に建っていたものと思われます。図面は鹿児島県歴史資料センター黎明館にある葛城彦一（お由羅騒動で、竹内伴右衛門・五百都と名を変えて長溥を頼って福岡亡命しています）文書にある絵図を基に作成されています。

御茶屋は藩主の別邸的な目的のほか政務を司る機能がありました。

筆頭家老・黒田播磨日記安政三年の記述を見てみます。

この年は福岡藩は参勤の帰国の年にあたり、11代藩主・長溥は3月23日、風雨の中を唐津街道の青柳の宿を早朝に発って午前8時頃箱崎御茶屋に小休止し、旅装束から正装に着替えました。筥崎宮に参詣と帰城のためです。藩では重臣たちが出迎えのため箱崎に集合しました。

日記の筆者・黒田播磨は医師の八木玄山方で羽織麻上下の正装に着替え、御茶屋に長溥を迎えます。その後、直ちに筥崎宮を参詣に同行します。

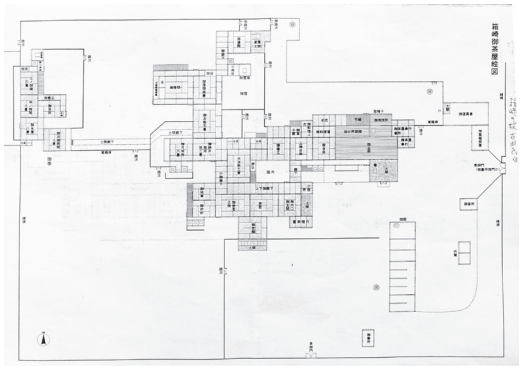
播磨はそばに付添いながら帰城しなければならないところ、風雨によって道が悪く、玄山方より駕籠に乗って下の橋から藩主に先んじて帰城し、更に本丸・玄関で再び藩主を迎えます。

文久2年にも同様に重臣たちが箱崎御茶屋に参勤帰国中の藩主を迎えたことが書かれています。

箱崎御茶屋は藩主の小休止のほか、政務に、又他藩の応接にも使用されました。万延2年正月には貧民の救済にあたり米を供出した有徳の者を本〆（もとじめ）が饗應して表彰しています。

その他天保5年には松平豊後守（薩摩藩9代藩主・島津家26代島津斉宣で長溥の兄にあたる）と長溥が対面して大筒・射馬などを視察しています。その他海艦軍業御覧、船軍術御覧、狼煙打ち上げ御覧などが行われています。

また表粕屋郡や裏粕屋郡では藩主や家臣たちの狩猟（これは武門の調練のひとつと見做された）も盛んに行われ、その際にも使われています。



鹿児島県歴史資料センター所蔵の
箱崎御茶屋絵図より起こされた図面

★新規入会員紹介

1. 一般会員
原田 隆志　黒田 浩二
黒田 美智子　井上 福男
黒田 和孝

2. 賛助会員　41企業・団体

編集後記

長政公４００年記念行事も文化講演会をもって滞りなく終了しました。今年からまた新しい目標を決めて進んでゆきたいと思っています。行事の案内を適宜行ってゆきますので、会員皆さまのご協力をお願いいたします。（天本記）

ホームページアドレス
http://toukoukai-kuroda.com/
藤香会　検索